

三里塚ジエット闘争勝利！

解雇撤回・原職復帰をめざして14年

人の首筋は許さぬ



全金本山圖爭概略

本山資本は、旧態依然とした生産体制では激化する企業間競争に勝てないと判断し、少數精銳化—首切り合理化を柱とする工場移転合理化を計画したのです。

そのために、二交替制に反対するような労働組合を解体する事が前提となり、死活をかけて組合つぶしにうって出てきたのです。

▼私達は不当解雇撤回闘争にたちあがった

一九七一年三月二十五日本山資本は、七〇春闘で二交替制導入反対闘争を指導した中心的活動家（当時副委員長）を仙台本社から、広島営業所への転勤命令をうち出し、本人が拒否するや即、懲戒解雇とする攻撃をかけてきました。

名。仙台に本社工場をおき、北海道から九州まで十三の営業所・出張所をもつ。

▼会社の組合潰しのねらいは何か?

バルブメーカーとしては老舗だった本山製造所も重化学工業の発展と高度成長とともに他資本のバルブ部門への進出が激化し、企業間競争にしのぎを削る事態に直面しました。

一方「激動の七〇年代」と言われたように資本主義経済の行詰まりが指摘されていまし

そうした意味からも、闘う仲間の先頭に立ち、組合員一丸となつて闘争勝利をかちとるべく闘い抜く決意です。

國鐵千葉動力車労働組合

84. 10. 26

1984. 9. 13 裏門での就労闘争

の攻撃に抗して自らの生活の一切をかけ、この十四年目を闘い抜いています。

本山資本の攻撃は、激しくなる企業間競争にうちかつたため個別資本の延命をかけた工場移転合理化・首切りの完遂にあり、それだけに徹底した激しい攻撃・弾圧の連続でした。

本山闘争十四年の全過程は、資本・権力の攻撃の形態のほぼすべてとの攻防のみならず、同盟・J.Cなどに屈服し、右翼労戦「統一」にのめりこむ今日の労働運動の現状において、一人の首切りも許さない「闘う全金の伝統」を守れるかどうかの攻防でもありました。

労働者の生活破壊と政治反動の強まりの中で、闘いを決意したものが直面せざるを得ない多くの教訓を本山闘争はつくりあげている点において、今日的に更に重要さを増しています。

▼相づぐ攻撃をはね返して闘い抜く

- 青柳・元副委員長が解雇（七一年三月）
- 御用第二組合デツチ上げ（七一年八月）
- 右翼暴力ガードマン導入（七二年五月）
- 暴力労務政策に抗し先頭で闘う熊谷組合が見せしめ解雇（二人目）（七二年十一月）

(18) (17)	(16) (15) (14) (13) (12) (11) (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)	面白ゼミナールカレンダー テレビマンガカレンダー
炊飯電子ジャー	うどん・温麺セット 梅ぼし	八〇〇円 五〇〇円
ビデオテープ	ピーナッツチョコボール トランプかるたセット	一、五〇〇円 一、一〇〇円
焼のり	かき珍味セット 乾しいたけ	九八〇円 一、一〇〇円
五帖入(贈答用)	剣先するめ ピーナッツ	五〇〇円 四〇〇円
	ウーロン茶 チーズ	七五〇円 八〇〇円
	カセットテープ	五八〇円 五五〇円
	五枚入	八〇〇円 二〇〇円
	各種有り	〇〇〇円
	各種有り	五〇〇円

組合事務所の上に
ひるがえる組合旗

=全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!=